

平成29年8月9日

平成29年度病害虫防除技術情報（第2号）

和歌山県農作物病害虫防除所

シロイチモジヨトウの発生状況について

シロイチモジヨトウ（図1、2）のフェロモントラップによる誘殺数が増加しています。今後、エンドウ等で幼虫による被害発生が予想されますので、防除対策を徹底してください。



図1 シロイチモジヨトウ（成虫）



図2 シロイチモジヨトウ（幼虫）

1. 対象地域：県内全域
2. 発生時期：8月～11月
3. 発生状況
  - 1) フェロモントラップによる6月～7月の雄成虫誘殺数は、紀の川市104頭（平年19.1頭）、御坊市666頭（平年163.5頭）、印南町187頭（平年178.5頭）であった。
  - 2) 紀の川市では6月から、御坊市では4月から誘殺数が増加傾向である（図3、4）。
  - 3) 県中部のトンネル栽培スイカにおける6月中旬の被害果率は23.1%（平年2.4%）であった。

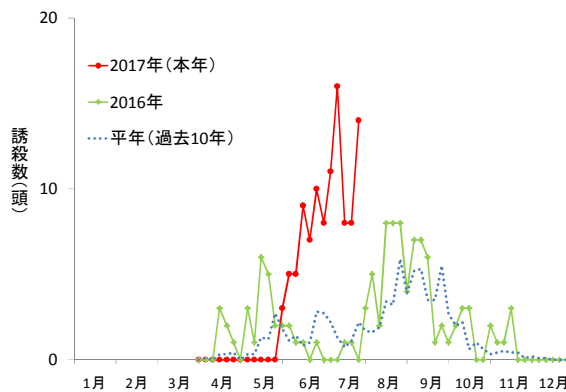


図3 フェロモントラップ誘殺数の推移（紀の川市）

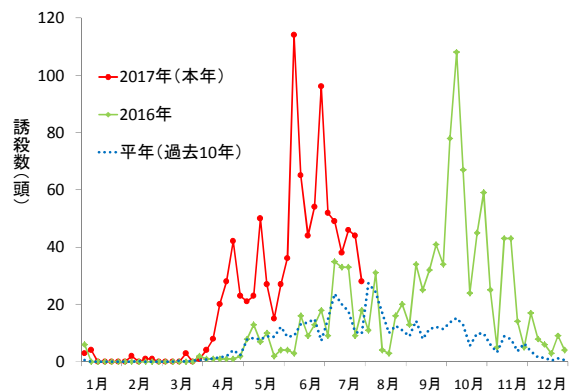


図4 フェロモントラップ誘殺数の推移（御坊市）

#### 4. 生態・被害作物等

##### 1) 生態

幼虫の発生量は8月～10月に多くなる。25℃での発育日数は、おおむね、卵が3日、幼虫が17日、蛹が9日で1世代に要する期間は約1か月である。

##### 2) 被害植物

広食性で50種類以上の植物を加害し、本県ではエンドウ、スイカ、カーネーション、宿根カスミソウ、スターチス等での被害が問題となる。

野菜類：ネギ、キャベツ、ハクサイ、ブロッコリー、ダイコン、ニンジン、レタス、  
ホウレンソウ、シソ、キュウリ、スイカ、トマト、ピーマン、イチゴ、オクラなど

豆類：エンドウ、ダイズ、サヤインゲンなど

花き類：カーネーション、宿根カスミソウ、キク、トルコギキョウ、スターチス、ガーベラなど

#### 5. 防除対策

- 1) 幼虫は大きくなると薬剤感受性が低下するので、若齢幼虫期の初期防除を徹底する。
- 2) 卵塊や分散前の幼虫は、見つけしだい捕殺する。
- 3) 幼虫は作物の芯部に潜り込む性質があり薬剤の防除効果が上がりにくいことから、物理的防除法（黄色蛍光灯、防虫ネット被覆）や性フェロモン剤による交信攪乱などを併用する。
- 4) 有機リン剤、ピレスロイド剤、カーバメート剤等に対して感受性の低下が報告されている。  
表1を参考に効果の高い薬剤を使用するとともに、同一系統薬剤の連用を避ける。
- 5) 薬剤については、最新の登録情報（（独）農林水産消費安全技術センター・農薬登録情報提供システム [http://www.acis.famic.go.jp/index\\_kensaku.htm](http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)）を参照し、適正に使用する。薬剤によって使用時期が異なるので注意する。

表1 シロイチモジヨトウ2齢幼虫に対する殺虫剤の効果

系統名	農薬名	希釈倍率	補正死虫率(%)	
			5日後	
			御坊市	印南町
スピノシン系	ディアナSC	5,000	100.0	100.0
	スピノエース顆粒水和剤	5,000	100.0	100.0
アベルメクテン系	アニキ乳剤	2,000	100.0	100.0
	アフーム乳剤	2,000	83.3	40.0
その他	コテツフロアブル	2,000	100.0	100.0
その他	プレオフロアブル	1,000	100.0	66.7
IGR(脱皮促進)	マトリックフロアブル	1,500	100.0	70.0
IGR(脱皮阻害)	カスケード乳剤	4,000	0.0	3.3
ピレスロイド系	トレボン乳剤	1,000	0.0	6.7
	アディオオン乳剤	3,000	0.0	0.0
ジアミド系	フェニックス顆粒水和剤	2,000	13.3	3.3
	プレバソソフロアブル5	2,000	0.0	0.0
MET I 剤	ハチハチ乳剤	1,000	10.0	6.7
	無処理		0.0	0.0

供試虫：2017年6月20日に御坊市名田町野島、印南町津井で採集し、人工飼料で飼育した次世代の2齢幼虫

処理日：2017年7月26日

調査日：2017年7月31日

葉片浸漬法、処理2日後に無処理の葉片を追加

担当：農作物病害虫防除所 本所  
岡本崇、井口 0736(64)2300